十文字学園 学園誌

立ちてかひある

Vol.10

安達一寿新学長に
学生が直撃インタビュー

十文字中学・高等学校の
“学び”の国際戦略

世界に羽ばたく十文字生が
増えている！

卒業生の肖像
継続は力なり！
目指すは、持続可能な食文化の創造
長内あや愛さん（食文化研究家）

研究の玉手箱
デジタル時代だからこそ、
“ホンモノ”に触れてほしい
樋口一貴先生（十文字学園女子大学 教育人文学部 文芸文化学科 教授）

歴史に彩られた宮城県涌谷町の
「歴史浪漫」観光マップ

JUMONJI TOPICS

園庭のうた
2025 幼稚園行事・イベント

短期大学開学60周年/
大学開学30周年記念教育整備募金のお願い

表紙題字：原千里（十文字学園女子大学OG）　表紙イラスト：PIXTA

安達一寿（あだち かずひさ）新学長に学生が直撃インタビュー

2025（令和７）年４月１日、社会情報デザイン学部教授で副学長だった安達一寿先生が新学長に就任されました。第６代学長として、十文字学園女子大学をリードすることになった新学長は、どのような大学を目指すのか!?　学生２人がお聞きしました。

聞き手　一条理央さん（社会情報デザイン学科４年）
鈴木智美さん（文芸文化学科４年）

学生たちが、一歩前に踏み出す力を育む大学を目指したい

鈴木　学長ご就任おめでとうございます。学長になられて何か心境の変化などありましたか？

安達学長　うーん、正直に言うと、まだ慣れませんね。副学長はやっていましたが、やっぱり学長となると違う。見ている視点や場所が違ってきたなというのはありますね。

一条　これまでいらした研究室と、学長室では居心地が違いますか？

安達学長　学長室にいるときは学長の仕事に集中していますが、学長とは言いつつも、授業もしているし、時間は減りましたが、研究者としての活動もしています。そこで、学長室、教室、研究室を行ったり来たりして、学長、教育者、そして研究者としてのそれぞれの顔を使い分けるようにしています。君たちも、学長室に来るより、研究室のほうが入りやすいんじゃないかな。

鈴木　確かに学生としては、学長室よりも先生が研究室にいらっしゃったほうが、訪れやすいし、お話もしやすいですね。

安達学長　学長になってからも、休み時間などにすれ違うとき、これまでと変わらず気軽に「おはようございます」と挨拶してくれる学生が多いですね。どうも学長だと思われていない節があるし、私はそれでいいと思うし、学生との距離はできるだけ近くしておきたいと思っています。

一条　先ほど副学長だったときと学長になってからでは、見る視点が変わったとお話しくださいましたが、先生は学長として、今後の十文字学園女子大学をどのような大学にしていきたいとお考えですか？

安達学長　私がつくりたいのは、学生が10年先、20年先といった将来を見据えて、自分がどうやって生きていけばいいかをしっかりと考えたり、そのきっかけをつかめる大学です。そのために必要なのが、歴史や伝統であり、そこで一緒に学ぶ仲間や、学生一人ひとりに寄り添い指導してくれる先生たちの存在です。

みんなも知っているとおり、十文字学園女子大学は１００年以上の歴史があり、その建学の精神は「身をきたへ 心きたへて 世の中に 立ちてかひある 人と生きなむ」です。そしてみんなの先輩たちは、その精神を具現化して、広く社会に出て活躍し、幸せな人生を築いています。まさに「立ちてかひある人」となっているのです。

また、せっかくの大学生活を学ぶだけではなく、さまざまな人との交流を通じて感じられる楽しさや満足感、日常では考えられないような体験ができる大学にしていきたいですね。

鈴木　心から、ウキウキ、ワクワクできる大学ですね。

安達学長　そう、みんなが「面白そうだからやってみよう！」と一歩前に踏み出す勇気を持つことが大切です。それがあって初めて、豊かな人生が広がっていくのではないかな。でも、そんな勇気をどうやって育んでもらえるのかが難しい。結局、最後は自分で選択するしかないわけですが、みんなに、その一歩を踏み出せるよう支えることが大学の役割だと考えています。

一条　大学も、歴史や伝統を守りながら、変わっていかなければならないということでしょうか？

安達学長　今でこそ「人生１００年時代」と言われますが、私自身、大学生だったときには、将来、世の中がどうなるのか、まあ予想もつきませんでした。当時、今につながるパソコンの初期型モデルが登場して「これからの時代はコンピュータも使えないとね」とは言われていました。しかし、まさかコンピュータが、みんなの日常生活にこれほど入り込んでくるなんて、とても想像できなかったというのが正直なところです。

また、ＩＴ技術が進化することに伴い、社会も猛烈なスピードで進むようになりました。そして今、世界は先が読めない、正解が見つからない世の中へと変貌していますね。

時代の変化と共に変わってきた〝学ぶべきこと〟

安達学長　かつての教育は、学生たちに知識を与えることを目的としていましたから、暗記力や計算力の優れた学生が高く評価されました。しかし今は違います。知識を蓄えたり、計算するような作業はコンピュータに任せればいいとまで言われたりするようになっていたところに、ＡＩ（人工知能）が登場して、２０４５年頃にはＡＩが人間の理解を超えると言われるようになっています。

図書館＋Ｆｏｒｕｍで行われたインタビュー。左から、安達学長、鈴木智美さん（文芸文化学科４年）、一条理央さん（社会情報デザイン学科４年）

ただし、ＡＩが正しい情報を提供するとは限りませんし、嘘もつきますから、使い方を間違えると大変です。そこで求められるのが、ＡＩを使いこなすスキルです。

鈴木　つまり、正しく情報処理をして、新しい技術や道具を自分の武器にしていく必要があるということですね。

安達学長　そうです。それに、もう一つ大切なのは〝何のために学ぶのか〟ということです。みなさんのこれから先の人生を考えたとき、決して順風満帆なときばかりではないでしょう。何か課題にぶつかったり、問題が生じたりすることもあります。そんなときに、いかに課題を乗り越え、問題を解決していくのかが問われますが、そうした力を、大学在学中に高めていってほしいと思います。

また、十文字学園女子大学では、「あなたらしさを ともに育む」というブランドコピーと共に、「プラスワン」（＋１）というキャッチコピーを掲げています。この「プラスワン」には、学生のみなさんをかけがえのないひとり（＋１）として歓迎し、みなさんの毎日に＋１を約束するという意味が込められています。私はみなさんに、専門の学科の勉強やサークル活動だけに終わるのではなく、例えば、地域連携、社会連携などの活動を通して、〝プラスの何か〟を身につけてほしいと思っています。

安達学長からの突然の逆質問に答えます！

安達学長　ここで二人に逆質問したいと思います。二人は「十文字の良さって何だ」と思っていますか？

鈴木　私は、自分の学科だけではなく、幅広く学べることがいいと思っています。

例えば、全学共通科目では、社会で生きていくために必要な基礎的な知識・教養を幅広く学べますし、各学科の専門科目の一部を、他学科の学生も履修できる制度を利用し、自分の興味のある分野をより専門的に学べる仕組みになっているのがすごくいいと思います。

一条　私が十文字の良さを感じているのは、一つは、学生と先生との距離感が非常に近いことです。担任の先生ともそうですが、学科の先生たちと学生との関係も風通しが良くて、ちょっとしたことでもすぐに相談できるほど仲がいいです。また、もう一つは、自由にいろんなことに挑戦できるし、その可能性を広げることができます。実際、何かに挑戦したいと思えば、大学が丁寧にサポートしてくれます。

安達学長　そうですね。そうした十文字の良さや強み、そして個性を大切にしながら、しっかりとした人材を育成していける大学を目指したいですね。そのためにも、学生の成長を促す教育や様々な活動の仕組みづくり、つまり、アップグレードした十文字の教育の表現に努めていきたいと考えています。それには、大学の教員や職員、それに学生たちとも手を携えていくことが必要です。

少子化が進む中で女子大学の意義が問われていますが、本当に必要な人材を育成して、日本中の人たちからも、「十文字学園女子大学は大事なことをやっているし、必要だよね」と思われるようにしていきたいと思います。

鈴木・一条　私たちも、十文字学園女子大学がより素晴らしい大学になるように、頑張りたいと思います。安達学長、本日はお時間をいただき、本当にありがとうございました。

【プロフィール】
1988年に東京学芸大学教育学部卒業。1990年に同大学大学院教育学研究科修士課程修了後、十文字学園女子短期大学に助手として着任。その後、十文字学園女子大学社会情報学部助教授(准教授)、同学部教授、人間生活学部メディアコミュニケーション学科教授などを経て、現在、社会情報デザイン学部社会情報デザイン学科教授(2024年より同学部長)。また2014年より同大学副学長も務めていた。
専門は教育工学、教育情報学。ＩＣＴを活用する新しい学習環境の開発と教育効果との関係や、ジェネリックスキル(問題解決力やコミュニケーション能力などの社会で幅広く通用するスキル)に関する調査・分析など学習支援のための諸研究に取り組み、受賞歴多数。日本教育情報学会会長。博士(教育学)。

十文字中学・高等学校の〝学び〟の国際戦略

国際社会で活躍する人材育成が求められる中、十文字中学・高等学校では、希望する生徒のために様々な国際交流プログラムを用意し、「〝学び〟の国際戦略」に取り組んでいます。

十文字の教育の柱の一つは「グローバル教育」

十文字中学・高等学校では、社会や世界とのつながりを意識した多様な学びのもとで、生徒一人ひとりが、自身の興味・関心を主体的かつ多角的に深めていけるようになることを目指し、教育の柱の一つとして「グローバル教育」を掲げています。

まず、ネイティブ教員による実践的な英語教育に加え、海外からの長期留学生を積極的に受け入れており、学内で他国の学生と共に学ぶ機会が数多くあります。

また、十文字学園女子大学及び十文字中学・高等学校が協定を結んでいる台湾の実践大学の先生たちによる特別講義の実施のほか、友好校協定を結んでいる台湾国立嘉義女子高級中学校とのオンライン交流なども実施してきました。さらに、独自に「十文字中学・高等学校 海外留学プログラム」も整えており、オーストラリア、アメリカ、台湾への短期・長期の留学プログラムを用意しているほか、今後、マレーシアでの海外研修プログラムも追加されることになっています。そして、こうした制度を利用して実際に留学することで積極的に学ぶ力をつけていく生徒たちが数多く誕生しています。

米国ワシントン大学と「連携協定」締結

それに加えて、2025年4月16日には、日本の高校としては初めて、世界的な名門校である米国ワシントン大学（シアトル市）と連携協定を結びました。

この協定の締結により、2026年から、高1と高2の希望者が留学プログラム（2月と8月）に参加できることになりました。参加者はワシントン大学でのプログラムに参加するのに加え、シアトルの地元企業と連携した「課題解決型プロジェクト」に参加するなど、海外でのリアルな学びを体験することになります。

十文字中学・高等学校としては、生徒のグローバルな視野の育成を図り、国際社会で活躍できる次世代リーダーの育成を目指しているのです。

進められている海外大学推薦制度の導入

さらに十文字中学・高等学校では、海外大学への進学希望者の増加に備えて、海外留学のサポートを行っている㈱留学情報館と協力して、「GIP（Global Innovation Program）海外大学推薦制度」に取り組んでいます。これは、世界中に広がる名門大学や教育機関と、留学情報館を通して連携・実施する海外大学進学のための推薦制度です（表参照）。十文字の生徒たちにとって、海外留学はますます身近なものになりそうです。

台湾・実践大学の先生による特別講座（2025年7月29日）

特別講義のあとに開かれた手作り台湾夜市。浴衣で楽しむ生徒も

イタリアから来日した高校生による書道体験授業（2025年7月28日。十文字高校提供）

写真前列右より、岡本英之 十文字学園常務理事・法人本部長、横尾康治 十文字中学校・高等学校校長、クリストファー・トーマス ワシントン大学コンティニュアムカレッジ 国際交流・コミュニケーション副部長、十文字佑子 十文字学園理事長

【十文字中学・高等学校「GIP海外大学推薦制度」の候補大学】

国　名	学校名
イギリス	マンチェスター大学、ブリストル大学、リーズ大学、他９校
ニュージーランド	オークランド大学、他３校
オーストラリア	西オーストラリア大学、アデレート大学、他14校
アイルランド	アイルランド国立大学ダブリン校
アメリカ	アリゾナ州立大学、イリノイ大学シカゴ校、カンザス大学、他18校
マレーシア	ヘリオット・ワット大学マレーシア校、UCSI大学、他４校
カナダ	サイモンフレーザー大学、マニトバ大学、他10校

延世大学校の入学式当日。正門前で記念撮影！

世界に羽ばたく十文字生が増えている！

韓国の難関大に合格！世界を目指す先輩を直撃

吉田仁瞳（ひとみ）さんは、今年2月末に十文字高等学校を卒業した後、3月から韓国の名門私立大「延世（ヨンセ）大学校」のグローバル人材学部で学んでいます。同校は、イギリスの大学評価機関「クアアレリ・シモンズ」が発表した最新の「世界大学ランキング」で、全体の50位（日本の東京大学は36位、京都大学は57位）。私立大学としてはアジアで1位にランクされている難関大学です。

それにしても、吉田さんが韓国への留学を決めた理由は何だったのでしょうか。吉田さんは、次のように振り返ります。

「私の姉がオーストラリアに留学していましたし、両親も『世界で活躍してほしい』と背中を押してくれていました。そんな中、私自身も、いずれ国際系の仕事に就きたいと考え、卒業後の進学先として英語圏の大学も視野に入れていました。

でも、高校1年生のときに、韓国に短期留学して、ホームステイしながら語学学校に通った経験が決め手になりました。もともとK－POPが好きで韓国に興味がありましたし、そのときの楽しくて充実した経験が韓国を留学先に選ぶ大きな理由となりました」（吉田さん）

ある程度ハングルは読めたという吉田さんは、高校2年生の後半から韓国語の単語集や過去問など4冊の教材を入手して、独学で入試対策をスタート。また、TOPIK（韓国語能力試験）で上から2番目の5級も取ったとか。

そして、2年生の冬休み、留学エージェントと契約して準備を始め、6月～12月にかけて、延世大学校の他、高麗（コリョ）大学校、成均館（ソンギュンガン）大学校にも出願。12月には第一希望の延世大学校の合格メールを受け取ったのです。

国際的な環境に囲まれた日々

延世大学校に入学する外国人新入生は、1年目はグローバル人材大学のグローバル基礎教育部に所属。寮生活が必須で、仁川（インチョン）ソンド国際キャンパスで学ぶことになりますが、吉田さんは「英語力が必要だ」と言います。

「基礎教育部では、授業でも日常生活の会話でも、韓国語より英語の比率が高くなります。そういう意味では、とても国際的な環境に囲まれていると思いますが、逆に言うと、英語ができないとスムーズな会話が難しい……。それだけに、しっかりと英語力をつけてから留学したほうがスムーズにいくと思います」（吉田さん）。

吉田さんは、「将来、外交官を目指すのか、世界を舞台に働くビジネスパースンを目指すのか、まだ明確には決まっていない」と言いますが、まだまだ1年生。2年生になれば、国際通商、韓国言語文化教育、文化メディア、バイオ生活工学、アプリケーション情報工学などの専攻に分かれることになります。どんな道を選ぶのか、吉田さんの選択が楽しみです。

延世大と高麗大の合同応援合戦の予行練習（2025年3月）に参加した吉田さん。

世界に羽ばたいた十文字の先輩たち

海外大学に進学した十文字の先輩は吉田さんばかりではありません。オーストラリアに留学した吉田さんのお姉さんも実は十文字の卒業生でしたし、これまでには、先生の協力などを受けながら、多くの先輩たちが海外大学へ飛び出していきました。実際に受験して見事合格した大学・学部は次のとおりです。

【十文字学園生の海外大学等への合格実績】

年　度	国　名	学校名
2022年	米国	デービス＆エルキンス・カレッジ（スポーツ）
2024年	米国	キャンベルズビル大学
2025年	マレーシア	インティ国際大学（国際経営）
	韓国	韓国外国語大学校（KFL・外国語としての韓国語教育）
		韓国外国語大学校（国家戦略言語・韓国）
		高麗大学校（自由専攻）
		成均館大学校（社会学科系列・心理）
		延世大学校（グローバル人材・グローバル人材・国際通商）
		延世大学校（文科・心理学）
	米国	テンプル大学（日本校：Undergraduate Program）
		メンフィス大学
	オーストラリア	西オーストラリア大学

※合格者内訳：学校推薦型選抜・総合型選抜→2名、一般選抜→10名

卒業生の肖像
OG portrait

継続は力なり！目指すは、持続可能な食文化の創造

1996年東京都生まれ。都内の公立中学を卒業後、十文字高等学校、慶應義塾大学総合政策学部、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に進み、2021年より慶應義塾大学SFC研究所の上席研究所員。㈱食の会 代表取締役、フェルメクテス㈱ 共同経営者、文部科学省 アントレプレナーシップ推進大使、山形大学農学部客員教授なども務める。

食文化研究家
長内（おさない）あや愛（め）さん

14歳の頃から食に関する仕事に就きたいと思っていた！

ご両親が福島県の南会津でスキースクールを経営していた関係で、子どもの頃から東京と福島を行き来して育ったという長内さんは、小中学校時代から、好きなお菓子づくりに熱中していました。

そんな長内さんが東日本大震災に遭遇したのは中学2年生のときでした。その際、福島の家では多くの避難民を受け入れました。

「大変な状況の中、食事をつくっても、みなさん、いろんな思いがあって、ほんの少ししか召し上がらない。そんな中で、ありあわせの材料でお菓子をつくったら、とても喜んでもらえたんです」（長内さん）

それは長内さんにとって大きな喜びでした。そして長内さんは『14才のパティシエ』というブログを立ち上げ、毎日毎日、つくったお菓子の写真をコツコツと更新していきました。長内さんにとって、それは自分のお菓子づくりの記録を残すと同時に、自分の存在や思いを発信することでもありましたし、その頃から「将来は食に関する仕事に就きたい」と明確に意識するようになったと言います。

十文字高等学校への進学

高校進学にあたり、長内さんにとって、ブログを続けられるかどうかが大きな問題でした。自ら、都内の女子高に次々に問い合わせてみたが、「在学中のSNSやブログへの投稿は絶対禁止！」という学校ばかり……。

「そんな中、唯一、当時の十文字の校長先生が、本名を出さないことと、ブログをやっていることを周囲に吹聴しないことを条件に入学を許可してくださったんです」（長内さん）

『14才のパティシエ』は少しずつ人気となって、ブログの料理人ランキングの3位になったこともあったそうです。それでも長内さんは、校長先生との約束を守って、同級生にも担任の先生にも秘密にして、ひっそりとブログを続けていました。そして進路選択の時期を迎えたときのことです。

「進路相談のとき、ブログを5年間1日も欠かさず続けていることを話すと、私の気持ちを理解して、『よし頑張れ！』と応援してくれました。どんなことでもコツコツと続けていくことは、自分の熱意を表すことにつながるんだということですね」（長内さん）

高校時代の長内さん

その後、長内さんは慶應義塾大学総合政策学部に挑戦し、みごとに合格しました。

大学では江戸時代から明治時代における日本の食文化や世界の食文化を広く学びました。そして、大学4年生のときに㈱食の会を起業して、慶應義塾大学大学院1年生のときに「食の会日本橋」という店をオープン。明治時代に食べられていたカレーや日本橋魚河岸のお刺身など、食の歴史に基づいた復刻再現料理を提供しています。

さらに、2022年からは、慶應義塾大学発のベンチャー企業であるフェルメクテス㈱の共同経営者を務めています。この会社では、納豆菌を原料とした加工食品（発酵性タンパク質食品）の開発・製造に取り組んでおり、今年は、製品を大阪・関西万博「TEAM EXPOパビリオン」に出展して話題となりました。

「これは、人類が生きていくために欠かせない〝持続可能な食文化〟を実現していくためには必要不可欠な技術です」（長内さん）

さらに本年度から、山形大学農学部の客員教授として教鞭をとることになりました。長内さんは今、大きく世界を見据えて、新たな挑戦を続けています。

研究の玉手箱

デジタル時代だからこそ、〝ホンモノ〟に触れてほしい

樋口一貴先生は、江戸時代絵画についての著書や論文執筆、また、展覧会の企画などの活動もしています。例えば、2021年に東京ミッドタウン・ホールで開催された「北斎づくし」の学術・展示監修や、2024年京都・細見美術館「美しい春画」、2025年熱海・MOA美術館「蔦重の眼」の監修も務めました。直近では、2025年7月24日にオープンした小樽芸術村・浮世絵美術館の開設にも顧問としてかかわりました。

樋口一貴（ひぐちかずたか）
十文字学園女子大学
教育人文学部 文芸文化学科 教授

慶應義塾大学 経済学部卒業後、慶應義塾大学大学院 文学研究科を経て、財団法人三井文庫学芸員となる。2015年に十文字学園女子大学 人間生活学部文芸文化学科准教授となり、2020年より現職。専門分野は日本美術史、江戸時代絵画。主な著書に『もっと知りたい円山応挙　改訂版』（東京美術）、『歌川豊国・春画の世界』（洋泉社）、共著に『肉筆浮世絵大観 3 出光美術館』（講談社）、『三井家のきもの』（文化出版局）など多数。

浮世絵は、人の営みを描く風俗画の流れの上に誕生した

そもそも、浮世絵が世界で知られるようになったのは1867年のこと。日本がパリで開催された万国博覧会に初めて参加したのがきっかけとされています。そのとき、江戸幕府は、銀象牙細工の小道具や磁器などとともに、葛飾北斎らの浮世絵を出品。それをきっかけに、ヨーロッパで〝ジャポニズム〟が広まり、クロード・モネやセザンヌ、ゴッホなどに大きな影響を与えました。彼らにとって、浮世絵は出合ったこともない衝撃的なモノだったのでしょう。

「しかし」と樋口先生は言い、言葉を続けます。

「実は、浮世絵は、『洛中洛外図屏風』（京都の市街と郊外の景観や風俗を描いた屏風）のように、人の営みを描く風俗画の流れの上に誕生したもので、奈良時代から続く歴史があります。例えば、浮世絵の一ジャンル『春画』も、人間をどう描くか、性愛をどう美しく表現するかを追究する中で生まれたものです。それを感じとるためにもホンモノに触れることが大切なのです」

ところで、先生の教え子たちは浮世絵を見てどんなことを感じているのでしょうか。先生に聞いてみると面白い言葉が返ってきました。

「例えば、授業で喜多川歌麿が描いた美人画『寛政三美人』を見せながら、一人ひとりの顔立ちを細かに描き分けていることを指摘すると、『先生、綺麗系の子と可愛い系の子が並んで写真を撮ると、お互いに映えるのと同じですね』などという反応が戻ってきて、実に面白い。

そもそも、浮世絵の浮世とは、当世という意味で、当時の最先端の風俗を写し取ったもの。そのモチーフには新しい事象や現象がどんどん取り入れられていたし、表現法も新しいものに変化しています。また《冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏》などで使われている青色（プルシアンブルー）は浮世絵を一変させたとされていますが、あの青色は、ヨーロッパで発明された合成顔料『ベルリン藍』（ベロ藍）で初めて出せるようになった色でした。海外の情報が限定的であった時期でも浮世絵師たちは、広く世界に目を向けていたのです」

ヨーロッパに“ジャポニズム”を巻き起こした浮世絵
葛飾北斎《冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏》大判錦絵（小樽芸術村「浮世絵美術館」の収蔵作品）図版提供：小樽芸術村

広い視野で未来を拓こう

それにしても、社会が激変する中、私たちはどんな将来を描いていけばいいのでしょうか。

「例えば、学芸員は資格を取ってもすぐになれるものではありません。そんな中、資格を活かして、どういう仕事をしながらキャリアをつくっていくかということを考える必要があります。美術館や博物館のショップで働く。ショップで販売するグッズ開発をする。あるいは音声ガイドをつくっている人もいれば、資料を整理する仕事やアーカイブを構築する仕事をしている人だっているでしょう。そういう意味では、これからの時代、働き方はますます多様になります。だからこそ、大きく視野を広げて社会に出ていってほしいと思います」

十文字大元氏のふるさと 歴史に彩られた宮城県涌谷町の「歴史浪漫」観光マップ

涌谷町公式観光PRキャラクター
「城山の金さん」

日本初の産金地

伊達騒動 ゆかりの城下町

宮城県涌谷町を紹介!!

レポーター 千葉桃郁さん（人間生活学部食物栄養学科2年生）

今回取り上げる宮城県遠田郡涌谷町は、十文字学園の創立者である十文字こと先生のご主人、大元氏のふるさとである。

大元は、1868年11月28日（明治元年10月15日）に、仙台藩一門である涌谷伊達家の師範家・十文字秀雄氏の息子として、この地で誕生した。そして1899（明治32）年、京都府師範学校女子部の助教諭・舎監だったこと先生と結婚。その後、金門商会を設立して成功したが、こと先生が戸野みちる氏、斯波安氏とともに文華高等女学校を創立し、さらに十文字学園へと発展させるにあたっては、こと先生を、まさに精神的・経済的に支え続けた存在でした。

そのような大元氏のふるさと涌谷町の魅力を、涌谷高等学校を卒業して、2024（令和6）年に十文字学園女子大学に入学した千葉桃郁さんに教えてもらいました。

「日本で初めて金が採れたという黄金山神社が有名ですが一番のオススメは、涌谷城跡を整備してつくられた城山公園です。涌谷市街を眺められますし、春に行われる『わくや桜まつり』には町外からもたくさんの人がやってきます。夜にはライトアップもされて、本当にきれいです。ぜひゆっくりと訪ねてみてください」（千葉さん）

ライトアップされた城山公園の夜桜
出典：涌谷町ホームページ

1 黄金山神社〔日本遺産構成文化財〕

天平21年（749年）の春、聖武天皇は、奈良東大寺の大仏に鍍金するための黄金をいかに調達するか苦慮していました。当時、日本国内では金は採れないとされ、すべて輸入に頼っていたからです。しかし、同年4月22日、陸奥国守である百済王敬福が小田郡（現在の黄金山神社一帯の山）で産出した砂金900両（約13kg）を献上したことにより、東大寺大仏は無事完成します。聖武天皇は、それを大変喜ばれ、年号が天平から天平感宝へと改元。それを伝え聞いた大伴家持は「天皇の御代栄えむと東なる陸奥山に金花咲く」という歌を万葉集に残しました。その後、小田郡は永年、陸奥国は3年間免税とされたとか!? 涌谷における金産出は、まさに国を挙げての慶事だったのです。

黄金山神社へ続く参道入口に建つ黄金色の大鳥居

現在の拝殿は、奈良時代につくられた仏堂跡の手前に天保8年（1837年）に建てられたもの。境内には「万葉歌碑」と「日本黄金始出地碑」がある。

涌谷町涌谷字黄金宮前23
涌谷駅（JR東日本 石巻線）から車で約7分

2 天平ろまん館〔日本遺産関連施設〕

天平ろまん館は、直売場と展示館、砂金採り体験場からなっています。直売場では涌谷町の特産品を販売している他、歴史館には、百済王敬福のイメージ像や平山郁夫による陶板画「東大寺大仏 開眼供養記図」、金銅龍鳳蓬莱山香炉（複製）などが展示されています。

ちなみに、砂金採りで採れた砂金は採った人のもの！また、その場でネックレス、キーホルダーなどのアクセサリーに加工してもらえます（有料）。

黄金山神社の隣地に建つ天平ろまん館。

涌谷町涌谷字黄金山1-3
涌谷駅（JR東日本 石巻線）から車で約7分
☎0229-43-2100
【開館時間】
午前9:30～午後5:00（11月～3月は午後4:30）
【休館日】年中無休
【歴史館入館料】
一般・大学生500円、小・中学生・高校生200円
【砂金採り体験料】
一般・大学生が1000円、小・中学生・高校生は900円（12～3月は休止）

大鳥居をくぐり参道を進むと、黄金山神社に続く石階段の上り口左に茶室「くがね庵」が建っている。ここでは、床の間に金箔をあしらった茶室で庭園を眺めながら、抹茶を楽しむことができる（抹茶・和菓子セット600円）。

【涌谷町へのアクセス】

電車（東京からのアクセス）

東京駅 →（1時間47分 東北新幹線）→ 古川駅 →（12分 JR陸羽東線）→ 小牛田駅 →（8分 JR石巻線）→ 涌谷駅

お車でのアクセス

東北自動車 古川インターから約30分

三陸道 松島北インターから約25分

出典：涌谷町民バス路線マップを加工

3 城山公園〔涌谷城跡〕

地域一帯を治めた涌谷伊達家の居城が建っていた場所で、明治維新を迎えるまで地域の中心として機能し、涌谷要害とも呼ばれました。現在は公園として整備されており、東北屈指の桜の名所として親しまれています。また、公園に隣接して、涌谷伊達家4代の伊達安芸宗重公を祀った涌谷神社もあり、地域の拠り所となっています。

■涌谷町立史料館

隅櫓（太鼓堂）の隣に建つ涌谷町立史料館では、涌谷伊達家の資料を中心に、町の歴史を紹介。2階につくられている明治から大正にかけて活躍した人々を紹介するコーナーには、十文字大元氏と義父の十文字栗軒氏のパネルも展示されています。

■涌谷神社

涌谷神社は、大正9年（1920年）に造営された木造平屋建て。城の中では一番の高所で江戸時代には物見台となっていたといいます。

町を展望できる小高い丘の上に、天保4年（1833年）の再建と伝えられる隅櫓（写真右）と、町のシンボルとして建てられた天守閣を模した涌谷町立史料館（写真左）が建つ。

城山公園
涌谷町涌谷字下町3-2
涌谷駅（JR東日本 石巻線）から徒歩約15分

涌谷町立史料館の十文字大元氏の紹介パネル

涌谷町立史料館
☎0229-42-3327
【開館時間】
4～11月9:00～16:00
【休館日】毎週水曜日
【入館料】
一般300円、高校生100円、小中学生100円

涌谷神社の社殿

涌谷神社　涌谷町涌谷字下町7

4 見龍寺〔涌谷伊達家墓所〕

見龍寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は海雲山。天正19年（1591年）に、亘理重宗が涌谷領主となったときに中興開山され、円同寺と称されていましたが、寛文11年（1671年）に伊達宗重が亡くなったとき、法号にちなんで見龍寺と改められました。

見龍寺には、涌谷伊達家の墓所があり、「見龍廟」と呼ばれ親しまれている。

涌谷町涌谷字竜渕寺10
涌谷駅（JR東日本 石巻線）から徒歩約15分

涌谷の特産品

おぼろ豆腐・おぼろ汁

江戸時代末期に関西から来たお坊さんが、お寺のわらじ脱ぎ場になっていた豆腐屋へ作り方、食べ方を伝授し、それが地域に広まったと伝えられている。

小ねぎ

関東以北最大の産地になっており、「仙台小ねぎ」として販売されている。

金のいぶき

涌谷産ブランド米。通常の玄米と比べ栄養が豊富で、特にGABA（リラックス効果・血圧降下作用）とビタミンE（強い抗酸化作用・老化防止）の含有が多く、現代人に必要な機能性を有した品種である。

出典：涌谷町ホームページ

Plus One 特別公開講座 第5回開催！
テーマは「目の前の分かれ道～面白そうな方を選んだら、今日に着いた～」

PLUS ONE 特別公開講座

2025年４月26日、十文字学園女子大学で、ハーゲンダッツジャパン株式会社取締役副社長の大谷弘子氏をお招きして「第５回PlusOne特別公開講座」が開催された。大谷氏は、1964年、埼玉県浦和市生まれ。慶應義塾大学を卒業後、日本電信電話、日本コカ・コーラ、キャドバリー・ジャパン（現モンデリーズ・ジャパン）などを経て、日本ケロッグで執行役員マーケティング本部長を、ローソンではマーケティング領域の執行役員を務め、2023年３月からはハーゲンダッツジャパンの取締役副社長に就任している。

様々な体験談を語ったうえで大谷氏は、「分かれ道に立ったときにはまず自分が面白そうだな、何だか興味が持てそうだなと感じたものをとりあえず選んで進んでいけばいい。あれ？と思ったときには、走りながら、必要に応じて修正していけば大丈夫」と話した。そうしていくうちに、“自分だけの唯一無二の太い道”ができあがるというのである。そして、結婚、出産、子育てをしたうえで、ビジネスパーソンとして第一線を走り続けている大谷氏は、話に聴き入っていた学生たちに次のようなアドバイスを送ってくれた。

「みなさんは激動の時代に生きてます。その生き方にたった１つの正解があるわけではない。何を選んでも正解だし、正解にできる。そういう時代にみなさんは生きていると思ってください」

岸博幸（きしひろゆき）氏を迎え、読書講演会
「限りある時間と無限の可能性　～毎日を楽しく生きるために～」を実施

2025年６月６日、十文字中学校・高等学校で、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授の岸博幸氏をお招きして、読書講演会「限りある時間と無限の可能性　～毎日を楽しく生きるために～」が実施された。

2023年に多発性骨髄腫という病気が発覚した岸氏は、自身が直面した厳しい現実について、闘病生活の写真を投影しながら振り返った。医師から告げられた「余命10年」という衝撃的な言葉……。それを受けて、残りの時間をどう自分と向き合い、どのように過ごしてきたかを語ってくださった。

そして、「どれだけ時間が残されているかということより、その時間をどう使うかが大切」「失敗を恐れず、たくさんの成功体験を積んでほしい」と語り、「やりたいことを探し続けること、やりたいことが見つかったら情熱を持って取り組むことが大切だ」と力強く語りかけてくれた。この岸氏の講演は、生徒たちの心に強く響いたようだ。質疑応答の時間に、多くの質問が寄せられ、最後まで手が挙がるほどだったのが、まさにその証（あかし）だった。生徒たちにとって、普段の授業ではなかなか聞けない、人生に関する深い話が伺える機会となり、これからの過ごし方について深く考える貴重な時間となったに違いない。

没後70年記念展示
「十文字学園の前身･文華高等女学校創立者　十文字ことのあゆみ」展を開催

昭和12（1937）年校長室にて

十文字ことの来歴について細かく紹介されています（第１期の展示風景）

2025年４月１日より、十文字学園の前身である文華高等女学校の創立者十文字こと（1870～1955）の没後70年を記念し「没後70年記念展示　十文字学園の前身・文華高等女学校創立者十文字ことのあゆみ」展を十文字学園女子大学図書館２階にて開催中だ。

１年を通して十文字ことの生涯をパネルで紹介するほか、関連資料、関連書籍を展示する。

十文字ことは、明治３（1870）年旧丹波の国下大久保村（現在の京丹波町）に生まれた。学校に通うことが当たり前ではなかった時代、幼い頃から学ぶ意欲を強く持ち、「近くに学校がほしい」「私が先生になって教えたい」という夢を抱き、京都、東京の師範学校で学んだ。そして、母校や鹿児島の学校で教鞭を執り、日本の女子教育の最前線に立ったのち、大正11（1922）年、同窓生の戸野みち子、斯波安とともに文華高等女学校を創立した。欧米教育視察後に私財を投じて新築した校舎が空襲で焼失するも復興させ、校長、理事長としても活躍した。まさに「自彊不息」の精神で生涯にわたり女子教育の発展に尽力し、昭和30（1955）年、84歳の生涯を静かに閉じた。

【展示スケジュール】
※都合により変更する場合があります。
第１期☆2025年４月１日（火）～６月28日（土）
〈文華から十文字へ①〉
第２期☆７月７日（月）～９月６日（土）
〈文華から十文字へ②〉
第３期☆９月19日（金）～11月15日（土）
〈自彊術〉
第４期☆11月25日（火）～2026年１月27日（火）
〈ことの学び〉
第５期☆２月６日（金）～３月19日（木）
〈藍綬褒章と寿像建設〉

田中熙巳（てるみ）氏による特別講演
「未来を生きる君たちへ伝えたいこと」を開催

田中氏から借用して学校で展示されたノーベル賞のメダルのレプリカ

2025年７月３日、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の代表委員・田中熙巳氏（十文字学園女子大学名誉教授）を講師に迎え、中学１～３年生を対象にした特別講演「未来を生きる君たちへ伝えたいこと」が開催された。田中氏は1945年、13歳のときに長崎で被爆、長年核兵器の廃絶と戦争のない社会の実現を訴え続けている。講演会では、「被爆者の多くが高齢となり、体験談を直接聞けなくなる時代がやってくる。だからこそ、被爆者が苦しい中で核廃絶を訴え続けてきた思いを、日本の若い人たちが受け継ぎ、世界に１万2000発以上あると言われている核兵器を少しでも早くなくせるように活動してほしい」と強く訴えた。

講演会に先立ち、生徒たちは長崎と広島への原爆投下について学んでいたが、田中氏の話を聞いて、「家族や周囲の人にも、田中氏から聞いた話を伝えていきたい」という思いを新たにしていた。

また中学２年生に対しては、講演会の翌日、〈「正義」と「ゆるす」を考える〉という道徳の授業が行われ、相手を受け入れることの難しさや大切さについて、それぞれの考えを深めることとなった。

田中氏の講演は、生徒たちの心に深く刺さったようである。講演後に書いた田中先生へのお礼の手紙をいくつか紹介しておこう。生徒たちそれぞれが、いかに田中氏の言葉を噛みしめ、生きる意味と平和について深く考えたかが伝わってくる。

「最近、ニュースで核兵器が第二次世界大戦を終わらせるきっかけになったと見たことがあります。私はこのような核兵器のおそろしさを知らない人たちに腹が立ちます。このような意見を無くすために、田中さんたちが行っている活動を、私たちが継承し、発展させていきたいです」（１年生）

「正義というのは、少しでも使い方を間違えてしまうと、誰かが幸せになっても誰かが不幸になる。戦争は正義なのでしょうか。（中略）もし私が戦争の時代に生きていたら絶対に耐えられません。その中で私と同じ年齢だった田中熙巳さんは本当にすごい人です。今でも戦争は終わっておらず、1つの爆弾でたくさんの命が失われている中、私にどんなことができるのか、少しでも戦争を止める行いをしたいです」（２年生）

「実際に体験したことがない私たちは原爆の恐ろしさというものを実感しました。被爆者の方のお話を聞く機会は今回が初めてだったので、とても貴重な経験になりました。（中略）

私たちよりも下の年代のこどもたちに、この今後絶対に起きてはならないことをどう伝えていくかが重要だと感じました」（３年生）

園庭のうた　2025 幼稚園行事・イベント

おたのしみ会

５月には、全園児と保護者みんなの親睦を兼ねて「おたのしみ会」を大学のグランドで行います。親子でダンスをしたり、散歩、虫探し、など自然をたっぷり感じた後で、みんなとお弁当を食べます。遠くに行かなくともお隣に広いグラウンドがあって本当にありがたいです。楽しい一日を過ごしました。

うめしごと

年長の子どもたちは毎年6月頃に、学内になっている梅の実をとって「梅シロップ」づくりをします。今年もたくさんの梅の実が収穫できました。梅シロップができたら、水で薄めて梅ジュースを楽しみます。そして小さなクラスの子どもたちを招いて「梅ジュース屋さん」をしようと計画している年長さんです。今からワクワク楽しみにしています。

短期大学開学60周年/大学開学30周年記念教育整備募金のお願い

学校法人十文字学園は1966年（昭和41年）に十文字学園女子短期大学を開学し、2026年（令和８年）に60周年を迎えます。おなじく、十文字学園女子大学は1996年（平成８年）に開学し、30周年を迎えます。

つきましては、この度、「十文字学園女子短期大学開学60周年・十文字学園女子大学開学30周年記念 教育整備募金」をお願いすることと致しました。

開学以来、短期大学と大学をあわせて約4万人の卒業生が、「身をきたへ　心きたへて世の中に　立ちてかひある　人と生きなむ」の建学の精神を受け継ぎ、社会に踏み出しました。現在、十文字学園女子大学は３学部９学科、在校生約3,000名を擁する中堅大学として、社会から高い評価をいただいています。これもひとえに卒業生が社会に出てからも「自彊不息」の姿勢で精進され、各分野で活躍されている賜物と感謝しております。

しかし、昨今の急激な少子化や大学間競争にあって、大学経営も不透明感が増しています。今後永く本学の使命を果たしていくためには、学生の満足度を高めて、大学の環境をより充実させていくことが必要となっており、その一環として、短大開設時の校舎である１号棟の改修工事に着手することと致しました。

今後とも、「十文字学園女子大学で学んで良かった」と多くの学生が声を発し、更に社会からも一段と本学の評価を高めていただけるよう、その歩みを進めてまいる所存です。

なお、ご寄付を賜りました方の寄付者芳名録を作成し、ご芳名を永久に保存させていただきます（希望される方のみ）。さらに10万円以上の高額寄付を賜りました方には、今回改修するスペースの一部に芳名プレートを貼り、永く感謝いたします。

以上、現下の状況をご理解いただき、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

詳細は、QRコードより
HPをご覧ください。

学校法人十文字学園 理事長
十文字 佑子

〈編集後記〉

本誌で紹介した通り、２０２５（令和７）年３月25日に日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳代表委員が本学名誉教授に就任されました。田中先生は１９９６年から２００３年の７年間十文字学園女子短期大学で教鞭をとられました。名誉教授に就任後早々、７月３日には十文字中学の学生を前に「未来を生きる君たちへ伝えたいこと」と題して、自身の経験や核兵器が溢れる現実を伝え、核兵器廃絶に向けた取り組みについて講演をいただきました。ちなみに、田中先生は93歳というご高齢にもかかわらず、精力的に日本全国の講演活動を続けていらっしゃいます。

世界には１万２０００発以上の核弾頭があり、水素爆弾ともなると、その破壊力は広島で使用された核爆弾の３０００倍以上と言われています。そして、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルを取り巻く中東の紛争、インドとパキスタンの衝突など、恐ろしいことに核兵器を保有する国（イスラエルは保有しているとされています）が争いを繰り広げています。今、人類はいつ何時、壊滅的な被害をもたらす核爆弾の被害者や加害者になるか分からない不安定な世界で生活しています。

このような現実を見ると、核兵器廃絶を達成させるという理想は遠い世界のように感じてしまいます。不可能と考えている人も多いかもしれません。しかし、救いもあります。田中先生は日頃から自分たちの思いを若い世代に繋いでいくことが大切だと語っていますが、この度の十文字中学講演会では、生徒全員が真剣な表情で説明を受け、講演では多くの質問が寄せられましたし、講演後のアンケートでは「核兵器ＮＯ！」とする多数の意見がありました。また、生徒たちからは田中先生に対する手紙も多く寄せられました。その中から、ひとつ紹介しておきましょう。

〈本日は、十文字中学校に来て戦争についてお話ししてくださり、ありがとうございました。普段、戦争について考えたことがあまりなかったので、この講演を機会に戦争がどれほど残酷で悲しいものかを知ることができました。遺体が散乱しているさまを直に見たことなど、具体的な様子を説明されたとき、想像するだけで体がヒヤヒヤしました。あの日、自分が生き残り、ただ良かったと思うのではなく、戦争をなくしたいという思いを行動にうつせた田中先生はすごいと思いました。（中略）将来、私も沢山の人にこのことを伝えられるような人になりたいです。そんな人になれるよう、がんばります〉

田中先生の「核兵器と共存しない世界の実現」の思いは確実に十文字中学の生徒に届きました。そして、この思いは多くの若い世代に引き継がれるはずです。いずれの日か核兵器が存在しない世界が必ず実現すると信じたいと思います。

（「立ちてかひある」発行編集担当者一同）

立ちてかひある Vol.10

令和７年９月30日発行

発　行　十文字学園

〒170-0004　東京都豊島区北大塚１-10-33　電話：03-3918-0511（代表）
〒352-8510　埼玉県新座市菅沢２-１-28　電話：048-477-0555（代表）

発 行 人　岡本英之（学校法人十文字学園 常務理事 法人本部長）
編 集 人　町田安幸（十文字学園 十文字学園女子大学 社会連携・広報部長）
鈴木　千尋（十文字学園 十文字中学・高等学校 入試広報部）
宮内　淳平（十文字学園 十文字学園女子大学 広報課）
監　　修　本間　　修（十文字学園 十文字学園女子大学 事務顧問）
編集制作協力　ザ・ライトスタッフオフィス

※「立ちてかひある」へのご感想・ご要望は十文字学園女子大学広報課 kohosi-g@jumonji-u.ac.jpまでお寄せください。